うつあるいはうつ状態への 情動的ストループテストの臨床的意義

○伊差川祐子¹・美濃哲郎¹・横井公一¹(非会員)

(¹関西福祉科学大学大学院)

キーワード: ストループテスト、情動、うつ

Emotional Stroop Task Performance of Depressed Participants.

Yuko ISAGAWA¹, Tetsuro MINO¹ and Koichi YOKOI^{1, #}

(¹. Kansai University of Welfare Sciences graduate, Social Work Graduate Program)

Key words: Stroop Test, emotion, depression

目 的

本研究では従来のストループテストに使用されている刺激カードを改訂している。従来のストループテストの刺激に情動語を用いて、うつ状態によって、その葛藤に差異があるかどうかをみることを目的とした。

方 法

被験者: あらかじめ CES-D によって健常群、抑うつ傾向群、臨床群の 3 群に分け、実験を行った (男性 11 名、女性 5 名、平均年齢 24.5 歳、SD=10.2)。

刺激: Thurstone, L. L. 改訂の Stroop Color-Word Interference Test カードをもとにして作成した。カード C (Color) は、あか、あお、きいろ、みどり、の 4 色の円形色紙を、10 行 10 列にランダムに配列した。カード NC (Neutral/Color) は、中立語を 4 色で彩色された文字で 10 行 10 列にランダムに配列したもの。カード TC (Threat/Color) は脅威語を 4 色で彩色された文字で 10 行 10 列にランダムに配列したもの。カード NW (Neutral/Word) は中立語を黒字ひらがなで 10 行 10 列にランダムに配列したもの。カード TW (Threat/ Word) は脅威語を黒字ひらがなで 10 行 10 列にランダムに配列したものであった。

質問紙: CES-D、ベック抑うつ尺度

実験計画: すべての被験者は、色読み条件 (カード C、カード NC、カード TC) 文字読み条件 (カード NC、カード TC、カード NW、カード TW) を受けた。

実験手続き: ①被験者を椅子に座らせ、質問紙を記入してもらった。②教示が印刷された紙を机のうえに提示して、読ませた。質問がないかどうかを尋ね、練習試行を行った。教示には、標準的なストループ課題の教示を与えた。③ヘッドセットのマイクを着けてもらい、もう一度質問がないか尋ねた。反応は、マイクによって音声をコンピュータに記録し、反応時間は、コンピュータで処理された。④最初のカードを胸の位置に両手で持ってもらい、最初の条件を提示した。⑤上記の 5 カードを使ってランダムに 7 試行速やかに実験を行った。⑥実験終了後、再度質問紙を記入してもらった。

結 果

実験の結果、脅威語補正值 (TC の平均時間と C の平均時間との差の平均) から中立語補正值 (NC の平均時間と C の平均時間との差の平均) を引いた値の平均は健常群のみマイナスの値となっており、抑うつ傾向群が最も大きな差となった。また、健常群は脅威語よりも中立語の色読み時間に時間がかかり、抑うつ傾向群は中立語よりも脅威語に時間がかかり、その 2 つに比べて臨床群はどの色読み条件でも時間は変わらなかった。

中立語補正值を健常群と抑うつ傾向群間 ($U=6, n=6, 6, p<.05$) と (Fig.1)、健常群の脅威語補正值から中立語補正值を引いた値の平均と抑うつ傾向群の脅威語補正值から中立語補正值を引いた値の平均間 ($t=2.39, p<.04, df=11$) で有意差が見られた (Fig.2)。

考 察

脅威語補正值から中立語補正值を引いた値から、平均健常群は脅威語が好ましくない、早く読み上げてしまおうとするのではないかと考えられる。一方、抑うつ傾向群は同様に脅威語が好ましくない、早く読み上げてしまおうと考えても、その文字の内容が情動に作用し、逆に読み上げる速度を遅くしてしまったのではないかと考えられる。臨床群は本研究に協力してもらえらるぐらいの状態ということは治療効果があり、状態としては、健常群と抑うつ傾向群の間くらいのパフォーマンスとなり、中立語と脅威語に差がなくなったのではないのではないだろうかと考えた。

検定結果から、健常群は抑うつ傾向群よりも中立語に対して葛藤が生じやすいこと、抑うつ傾向群は健常群よりも中立語よりも脅威語に対して葛藤が生じやすいということがわかった。抑うつ傾向群は健常群に比べて脅威語に対して内容に注意が向きやすくなるが、逆に健常群にとって脅威語は、中立語よりも早く読み上げてしまおうという思いから早い反応時間になってしまっているものと考察できる。

Fig.1 中立語補正值

Fig.2 補正值の差 (前中後)